

新旧対照表

(1) 構造改革特別区域計画 本体

新	旧																								
<p>4. 構造改革特別区域の特性</p> <p>～省略～</p> <p>しかし、昭和 50 年代に入ると、オイルショックに端を発した造船不況の波をかぶり、相生市では人口も昭和 50 年 12 月、43,192 人であったが、<u>平成 20 年 12 月末には 32,472 人と大幅な減少となっている。</u></p> <p>～省略～</p> <p>7. 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果</p> <p>【学校設置による経済的効果】</p> <p>①地元人材の雇用の創出</p> <p>～省略～</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員雇用(総数)</th> <th>事務職員雇用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 20 年度</td> <td style="text-align: center;"><u>13</u>人</td> <td style="text-align: center;">3人</td> </tr> <tr> <td>平成 21 年度(見込み)</td> <td style="text-align: center;"><u>15</u>人</td> <td style="text-align: center;">4人</td> </tr> <tr> <td>平成 22 年度(見込み)</td> <td style="text-align: center;">16人</td> <td style="text-align: center;">6人</td> </tr> </tbody> </table>		教員雇用(総数)	事務職員雇用	平成 20 年度	<u>13</u> 人	3人	平成 21 年度(見込み)	<u>15</u> 人	4人	平成 22 年度(見込み)	16人	6人	<p>4. 構造改革特別区域の特性</p> <p>～省略～</p> <p>しかし、昭和 50 年代に入ると、オイルショックに端を発した造船不況の波をかぶり、相生市では人口も昭和 50 年 12 月、43,192 人であったが、<u>平成 19 年 3 月末には 32,907 人と人口減少に歯止めがかからない状況が続いている。</u></p> <p>～省略～</p> <p>7. 構造改革特別区域計画の実施が構造改革特別区域に及ぼす経済的社会的効果</p> <p>【学校設置による経済的効果】</p> <p>①地元人材の雇用の創出</p> <p>～省略～</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>教員雇用(総数)</th> <th>事務職員雇用</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 20 年度(見込み)</td> <td style="text-align: center;"><u>10</u>人</td> <td style="text-align: center;">3人</td> </tr> <tr> <td>平成 21 年度(見込み)</td> <td style="text-align: center;"><u>13</u>人</td> <td style="text-align: center;">4人</td> </tr> <tr> <td>平成 22 年度(見込み)</td> <td style="text-align: center;">16人</td> <td style="text-align: center;">6人</td> </tr> </tbody> </table>		教員雇用(総数)	事務職員雇用	平成 20 年度(見込み)	<u>10</u> 人	3人	平成 21 年度(見込み)	<u>13</u> 人	4人	平成 22 年度(見込み)	16人	6人
	教員雇用(総数)	事務職員雇用																							
平成 20 年度	<u>13</u> 人	3人																							
平成 21 年度(見込み)	<u>15</u> 人	4人																							
平成 22 年度(見込み)	16人	6人																							
	教員雇用(総数)	事務職員雇用																							
平成 20 年度(見込み)	<u>10</u> 人	3人																							
平成 21 年度(見込み)	<u>13</u> 人	4人																							
平成 22 年度(見込み)	16人	6人																							

新	旧																
<p>② 学校の開設、スクーリング実施に伴う地域経済の活性化 ～省略～</p> <table border="1" data-bbox="255 451 956 651"> <thead> <tr> <th></th> <th>集中スクーリング参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 20 年度_____</td> <td><u>1 1 1 人</u></td> </tr> <tr> <td>平成 21 年度(見込み)</td> <td>3 0 0 人</td> </tr> <tr> <td>平成 22 年度(見込み)</td> <td>4 5 0 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 自治体における歳入の増加</p> <p>富士コンピュータ販売株式会社が設置する通信制単位制高等学校の校地校舎は、旧相生中学校跡地を有償賃貸させるため、事業主体と賃貸借契約を締結することで賃借料の収入のみならず、法人市民税の増加が見込まれる。</p> <p><u>また、市広報紙及び市ホームページへの広告掲載により、市の歳入増加も見込まれる。</u></p>		集中スクーリング参加数	平成 20 年度_____	<u>1 1 1 人</u>	平成 21 年度(見込み)	3 0 0 人	平成 22 年度(見込み)	4 5 0 人	<p>② 学校の開設、スクーリング実施に伴う地域経済の活性化 ～省略～</p> <table border="1" data-bbox="1113 446 1809 646"> <thead> <tr> <th></th> <th>集中スクーリング参加数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成 20 年度(見込み)</td> <td><u>1 5 0 人</u></td> </tr> <tr> <td>平成 21 年度(見込み)</td> <td>3 0 0 人</td> </tr> <tr> <td>平成 22 年度(見込み)</td> <td>4 5 0 人</td> </tr> </tbody> </table> <p>③ 自治体における歳入の増加</p> <p>富士コンピュータ販売株式会社が設置する通信制単位制高等学校の校地校舎は、旧相生中学校跡地を有償賃貸させるため、事業主体と賃貸借契約を締結することで賃借料の収入のみならず、法人市民税の増加が見込まれる。</p>		集中スクーリング参加数	平成 20 年度(見込み)	<u>1 5 0 人</u>	平成 21 年度(見込み)	3 0 0 人	平成 22 年度(見込み)	4 5 0 人
	集中スクーリング参加数																
平成 20 年度_____	<u>1 1 1 人</u>																
平成 21 年度(見込み)	3 0 0 人																
平成 22 年度(見込み)	4 5 0 人																
	集中スクーリング参加数																
平成 20 年度(見込み)	<u>1 5 0 人</u>																
平成 21 年度(見込み)	3 0 0 人																
平成 22 年度(見込み)	4 5 0 人																

(2) 構造改革特別区域計画 別紙

新	旧
<p>2. 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者 <u>相生学院高等学校</u></p> <hr/> <p>3. 当該規制の特例措置の適用の開始の日 認定を受けた日</p> <p>4. 特定事業の内容 ～省略～</p> <p>(4) 事業により実現される行為や整備される施設などの詳細</p> <p>① 広域通信制単位制高等学校の開設 平成 20 年 4 月 1 日に開設し、開校後も引き続き生徒募集・教育環境整備・職員採用等、<u>学校の充実に努めている。</u></p> <p>② 教育課程 教育課程は、別紙 _____ のとおりとする。 ～省略～</p> <p>5. 当該規制の特例措置の内容（設置位置） ～省略～</p>	<p>2. 当該規制の特例措置の適用を受けようとする者 <u>仮称：相生学院高等学校</u> <u>(富士コンピュータ販売株式会社により設立される広域通信制単位制高等学校)</u></p> <p>3. 当該規制の特例措置の適用の開始の日 認定を受けた日</p> <p>4. 特定事業の内容 ～省略～</p> <p>(4) 事業により実現される行為や整備される施設などの詳細</p> <p>① 広域通信制単位制高等学校の開設 平成 20 年 4 月 1 日の開設を予定している。<u>特区認定後、高等学校設置認可手続きを行い、設置認可後、生徒募集・教育環境整備・職員採用等の開校に必要な準備を進める。</u></p> <p>② 教育課程 教育課程は、別紙「<u>通信科</u>」と「<u>特進科</u>」のとおりとする。 ～省略～</p> <p>5. 当該規制の特例措置の内容（設置位置） ～省略～</p>

新	旧
<p>(2) 当該株式会社の設置する学校が適切かつ効果的であると認めた理由</p> <p>～省略～</p> <p>なお、広域通信制単位制高等学校の校地、校舎については、<u>廃校となった旧相生中学校を有償貸与し、校舎については、富士コンピュータ販売株式会社が設備等についてリニューアルを行う。</u></p> <p>① 一定の要件</p> <p>ア、資産要件</p> <p>～省略～</p> <p>加えて、学校の校地校舎については、<u>廃校跡地の校地は 10 年間に有償貸与 (以後は更新)、又、校舎は 5 年間に有償貸与 (以後は更新) することとしている。</u> (以下省略)</p> <p>イ、学校経営を担当する役員に学校経営の知識又は経験があること</p> <p>大阪大学名誉教授ならびに大阪電気通信大学前学長である南茂夫氏を中心に、<u>学校法人長尾谷高等学校校長代理であった土屋和男氏を副理事長として、また、大阪教育大学出身で 38 年教鞭をとられた兵庫県立加古川北高等学校の元校長である長谷川好一氏を校長として、大阪電気通信大学の学生部次長であった新宅寛氏が事務長として就任することとしており、いずれの氏も長年教育に携わっており、学校経営に十分な知識がある。</u></p> <p>～省略～</p>	<p>(2) 当該株式会社の設置する学校が適切かつ効果的であると認めた理由</p> <p>～省略～</p> <p>なお、広域通信制単位制高等学校の校地、校舎の確保については、<u>現在廃校となっている旧相生中学校を有償貸与させることとしており、校舎については、富士コンピュータ販売株式会社が設備等についてリニューアルを行う予定である。</u></p> <p>① 一定の要件</p> <p>ア、資産要件</p> <p>～省略～</p> <p>加えて、学校の校地校舎については、<u>廃校跡地の校地は 20 年間に有償貸与、又、校舎は 5 年間に有償貸与 (以後は更新) させる予定である。</u> (以下省略)</p> <p>イ、学校経営を担当する役員に学校経営の知識又は経験があること</p> <p>大阪大学名誉教授ならびに大阪電気通信大学前学長である南茂夫氏を中心に、大阪教育大学出身で 38 年教鞭をとられた兵庫県立加古川北高等学校の元校長である長谷川好一氏や、大阪電気通信大学の学生部次長であった新宅寛氏などが、<u>学校経営にあたる予定であり、いずれの氏も長年教育に携わっており、学校経営に十分な知識がある。</u></p> <p>～省略～</p>

新	旧
<p>(3) 地方公共団体の責務</p> <p>① 審議会</p> <p>相生市では、行政の適正性、公正性、専門性を確保するため、学校経営の知識を有する学校関係者 2 人、行政全般や地域の有識者 3 人の計 5 人の<u>構成</u>による、市独自の学校設置審議会を設置する。</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>_____</p> <p>② 地方公共団体による評価</p> <p>～省略～</p> <p>なお、具体的評価については、学校教育法、設置基準、学習指導要領等を踏まえ、学校経営の公共性、継続性・安定性の観点から、学校経営面、教育研究面の状況について適切に評価するため、<u>学校評価基準を定め、開校後 1 年を経過した後に学校評価を実施する。</u></p> <p>また、地方公共団体による評価は、経営並びに教育に対する評価内容であるため、<u>平成 20 年 1 月に改訂された学校評価ガイドライン</u>を参考に独自で設定する評価基準に基づき実施することとし、その結果は、<u>市のホームページ等</u>を活用して広く一般に公表する。</p>	<p>(3) 地方公共団体の責務</p> <p>① 審議会</p> <p>相生市では、行政の適正性、公正性、専門性を確保するため、<u>その構成は</u>学校経営の知識を有する学校関係者 2 人、行政全般や地域の有識者 3 人の計 5 人による、市独自の学校設置審議会を設置する。</p> <p><u>なお、特区認定後、すみやかに設置認可等に関する審査基準を定め、富士コンピュータ販売株式会社から学校設置申請書の提出後、すみやかに学校の設立許可を審議する予定である。</u></p> <p>② 地方公共団体による評価</p> <p>～省略～</p> <p>なお、具体的評価については、学校教育法、設置基準、学習指導要領等を踏まえ、学校経営の公共性、継続性・安定性の観点から、学校経営面、教育研究面の状況について適切に評価するために、<u>特区認定後、学校設置審議会において必要な評価項目の設定を行う。</u></p> <p>また、地方公共団体による評価は、経営並びに教育に対する評価内容であるため、市のホームページ等を活用して広く一般に公表する。</p>

新							旧								
[教職員配置計画表]							[教職員配置計画表]								
種 別	平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		備 考	種 別	平成 20 年度		平成 21 年度		平成 22 年度		備 考
	教員免許 保有者		教員免許 保有者		教員免許 保有者				教員免許 保有者		教員免許 保有者		教員免許 保有者		
校 長	1		1		1		数学兼	校 長	1		1		1		
国 語	1		1		1(1)		教頭兼	国 語	1		1		1(1)		教頭兼
社 会	<u>2</u>		<u>2</u>		<u>2</u>			社 会	<u>1</u>		<u>1</u>		<u>1(1)</u>		
数 学	<u>3</u>		<u>3</u>		<u>3</u>		1名校長兼、 1名英語兼	数 学	<u>* 1 (1)</u>		<u>* 1 (1)</u>		<u>1 (1)</u>		
理 科	1		1(1)		1(1)			理 科	1		1(1)		1(1)		
英 語	<u>2(1)</u>		<u>2(1)</u>		<u>2(1)</u>		1名数学兼	英 語	<u>1</u>		<u>1(1)</u>		<u>1(1)</u>		
保健体育	<u>(1)</u>		<u>(1)</u>		<u>(1)</u>			保健体育	<u>1</u>		<u>1 (1)</u>		<u>1 (1)</u>		
芸 術	(1)		<u>(2)</u>		<u>(2)</u>			芸 術	(1)		<u>(1)</u>		<u>(1)</u>		
家 庭	(1)		(1)		(1)			家 庭	(1)		(1)		(1)		
情 報	1		1		1			情 報	1		1		1		
看 護 師		1		1		1		看 護 師		1		1		1	
事務職員		2		3		5		事務職員		2		3		5	
計	<u>9(4)</u>	3	<u>9(6)</u>	4	<u>9(7)</u>	6		計	<u>7(3)</u>	3	<u>7(6)</u>	4	<u>8(8)</u>	6	

注 () 内の数は、非常勤講師の数です。

注 () 内の数は、非常勤講師の数です。
* 1 の、数学、H20 年・H21 年は、校長が兼務する。

新

教育課程表

教科	科目	区分	単位数 (単位)	面接指導 (単位時間)	添削指導 (回)
----	----	----	-------------	----------------	-------------

～省略～

数学	数学基礎	選択必須	2	2	6
	数学 I		<u>4</u>	<u>4</u>	<u>12</u>
	数学 II	選択	4	4	12
	数学 III		<u>4</u>	<u>4</u>	<u>12</u>
	数学 A		2	2	6
	数学 B		2	2	6
	数学 C		2	2	6
理科	理科基礎	選択必須	2	8	6
	理科総合 A		2	8	6
	理科総合 B		2	8	6
	生物 I	選択必須	<u>4</u>	<u>16</u>	<u>12</u>
	化学 I		<u>4</u>	<u>16</u>	<u>12</u>
	物理 I		<u>4</u>	<u>16</u>	<u>12</u>
	生物 II		<u>4</u>	<u>16</u>	<u>12</u>
	化学 II		<u>4</u>	<u>16</u>	<u>12</u>
	物理 II		<u>4</u>	<u>16</u>	<u>12</u>

旧

教育課程表

(通信科・特進科共通科目)

教科	科目	区分	単位数 (単位)	面接指導 (単位時間)	添削指導 (回)
----	----	----	-------------	----------------	-------------

～省略～

数学	数学基礎	選択必須	2	2	6
	数学 I		<u>3</u>	<u>3</u>	<u>9</u>
	数学 II	選択	4	4	12
	数学 III		<u>3</u>	<u>3</u>	<u>9</u>
	数学 A		2	2	6
	数学 B		2	2	6
	数学 C		2	2	6
理科	理科基礎	選択必須	2	8	6
	理科総合 A		2	8	6
	理科総合 B		2	8	6
	生物 I	選択必須	<u>3</u>	<u>12</u>	<u>9</u>
	化学 I		<u>3</u>	<u>12</u>	<u>9</u>
	物理 I		<u>3</u>	<u>12</u>	<u>9</u>
	生物 II	選択	<u>3</u>	<u>12</u>	<u>9</u>
	化学 II		<u>3</u>	<u>12</u>	<u>9</u>
	物理 II		<u>3</u>	<u>12</u>	<u>9</u>

新						旧					
保健体育	体育	必須	<u>8</u>	<u>40</u>	<u>8</u>	保健体育	体育	必須	<u>7</u>	<u>35</u>	<u>7</u>
	保健	必須	2	2	6		保健	必須	2	2	6
芸術	美術 I	選択必須	2	8	6	芸術	美術 I	必須	2	8	6
	音楽 I		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>6</u>						
外国語	オーラル・コミュニケーション I	選択必須	2	8	6	外国語	オーラル・コミュニケーション I	選択必須	2	8	6
	英語 I		<u>4</u>	<u>16</u>	<u>12</u>		英語 I		<u>3</u>	<u>12</u>	<u>9</u>
	英語 II	選択	4	16	12		英語 II	選択	4	16	12
	リーディング		4	16	12		リーディング		4	16	12
	ライティング		4	16	12		ライティング		4	16	12
家庭	家庭基礎	選択必須	2	<u>4</u>	<u>4</u>	家庭	家庭基礎	必須	2	<u>16</u>	<u>6</u>
	家庭総合		<u>4</u>	<u>8</u>	<u>8</u>	情報	情報 A	選択必須	2	<u>16</u>	6
情報	情報 A	選択必須	2	<u>4</u>	6	情報 B	2		<u>16</u>	6	
	情報 B		2	<u>4</u>	6	情報 C	2		<u>16</u>	6	
	情報 C		2	<u>4</u>	6	特別活動		必須		<u>30</u>	

新						旧																																																										
体験学習	ボランティア	選択	2	4	3	※ 以上の教育課程表に加えて、以下の課程表を用いる。 (通信科) <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">体験</td> <td>ボランティア</td> <td rowspan="3">選択</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>体験学習漁業</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>体験学習農業</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="3">総合的な学習の時間・情報処理 (システムアドミニストレータ等)</td> <td>6</td> <td>48</td> <td>18</td> </tr> </table> (特進科) <table border="1"> <tr> <td rowspan="3">体験</td> <td>ボランティア</td> <td>必須</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>体験学習漁業</td> <td rowspan="2">選択</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>体験学習農業</td> <td>2</td> <td>6</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td colspan="3">総合的な学習の時間・サッカー</td> <td>6</td> <td>48</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td colspan="3">総合的な学習の時間・ペーロン競漕</td> <td>6</td> <td>48</td> <td>6</td> </tr> <tr> <td colspan="3">総合的な学習の時間・情報処理 (FLASH等の技術習得)</td> <td>6</td> <td>48</td> <td>18</td> </tr> </table>						体験	ボランティア	選択	2	6	3	体験学習漁業	2	6	3	体験学習農業	2	6	3	総合的な学習の時間・情報処理 (システムアドミニストレータ等)			6	48	18	体験	ボランティア	必須	2	6	3	体験学習漁業	選択	2	6	3	体験学習農業	2	6	3	総合的な学習の時間・サッカー			6	48	6	総合的な学習の時間・ペーロン競漕			6	48	6	総合的な学習の時間・情報処理 (FLASH等の技術習得)			6	48	18
	体験	ボランティア	選択	2	6								3																																																			
		体験学習漁業		2	6								3																																																			
体験学習農業		2		6	3																																																											
総合的な学習の時間・情報処理 (システムアドミニストレータ等)			6	48	18																																																											
体験	ボランティア	必須	2	6	3																																																											
	体験学習漁業	選択	2	6	3																																																											
	体験学習農業		2	6	3																																																											
総合的な学習の時間・サッカー			6	48	6																																																											
総合的な学習の時間・ペーロン競漕			6	48	6																																																											
総合的な学習の時間・情報処理 (FLASH等の技術習得)			6	48	18																																																											
漁業	※特進科は	2	4	3																																																												
農業	選択必須	2	4	3																																																												
総合的な学習の時間	情報処理Ⅰ (ITパスポート・ストラテジ)	選択必須 2科目以上	2	8	6																																																											
	情報処理Ⅱ (ITパスポート・マネジメント)		2	8	6																																																											
	情報処理Ⅲ (ITパスポート・テクノロジー)		2	8	6																																																											
	情報処理Ⅳ (ITパスポート・試験対策)		2	8	6																																																											
	情報処理Ⅴ (FLASH等の技術習得・基礎)		2	8	6																																																											
	情報処理Ⅵ (FLASH等の技術習得・応用)		2	8	6																																																											
	情報処理Ⅶ (FLASH等の技術習得・制作①)		2	8	2																																																											
	情報処理Ⅷ (FLASH等の技術習得・制作②)		2	8	2																																																											
	サッカーⅠ		2	8	2																																																											
	サッカーⅡ		2	8	2																																																											

新		旧		
<u>サッカーⅢ</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>サッカーⅣ</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>ペーロン競漕Ⅰ</u> <u>(ペーロン講</u> <u>習・心肺蘇生)</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>ペーロン競漕Ⅱ</u> <u>(ペーロン大</u> <u>会)</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>ペーロン競漕Ⅲ</u> <u>(ペーロン大</u> <u>会)</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>ペーロン競漕Ⅳ</u> <u>(ペーロン大</u> <u>会)</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>ヨット</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>伝統芸能</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>国際理解</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
<u>目標発見</u>		<u>2</u>	<u>8</u>	<u>2</u>
特別活動	必須		30	

新	旧
<p>※ 総合的な学習の時間について</p> <p>情報処理 <u>I～IV (ITパスポート)</u> : <u>将来の就職に備えてIT技術の習得は必要不可欠である。国家試験「ITパスポート試験」の合格を目指すことで、将来の職業人として必要なITに関する基礎知識を習得させ、優秀な人材を育成する。</u></p> <p>情報処理 <u>V～VIII (FLASH等の技術習得)</u> : <u>フラッシュとは、音声やベクターグラフィックスのアニメーションを組み合わせることで、Webコンテンツを作成するものである。実際の作品づくりを通して興味を持って学ぶことができ、同時に様々な技術を習得させることで優秀な人材を育成する。</u></p> <p>サッカー <u>I～IV</u> : <u>プロサッカーリーグ在籍者協力のもと、サッカーを通して生徒の個々の特性を伸ばすとともに、団体競技によるコミュニティの形成と、目標を持つことが大切であることから、勝つサッカーを目指す。</u></p>	<p>※ 総合的な学習の時間について</p> <p><u>(通信科)</u> <u>情報処理 (システムアドミニストレータ等) :</u> <u>就職する上で、IT技術の習得は必要不可欠であるため、システム管理者の能力を身に付け、資格の習得を目指すことで、優秀な人材を育成することを旨とする。</u></p> <p><u>(特進科)</u> <u>サッカー :</u> <u>プロサッカーリーグ在籍者の協力のもと、サッカーを通じ生徒の個々の特性を伸ばすとともに、団体競技によるコミュニティの形成を育むことを旨とする。また、目標を持つことが大切であることから、勝つサッカーを目指す。</u></p>

新	旧
<p>ペーロン競漕Ⅰ～Ⅳ： 市の伝統文化であるペーロンは、漕ぎ手28人、舵取り1人、ドラ1人、太鼓1人、艇長1人の32人が行う木造艇による競漕である。 <u>チームワークを高めることで、感動や達成感を体験させる。</u></p> <hr/> <hr/> <hr/> <hr/> <p><u>ヨット：</u> <u>ヨット乗船を通して、自然にふれあう機会をつくり、自然の力を生かした動力の仕組みを学び体験すると同時に、人力による操船の面白さやチームワークを学ばせる。</u></p> <p><u>伝統芸能：</u> <u>茶道・華道・陶芸・革細工など日本古来の芸術や技能に慣れ親しむ中で、礼儀作法、創作の面白さや喜び、物を大切にする態度を育て、より豊かで充実した日常生活を送ることへのきっかけを与える。</u></p>	<p>ペーロン競漕： 市の伝統文化であるペーロンは、漕ぎ手28人、舵取り1人、ドラ1人、太鼓1人、艇長1人の32人が行う木造艇による競漕。 <u>チームワークを高めることで、感動や達成感を与えることを目指す。</u></p> <p><u>情報処理（FLASH等の技術習得）：</u> <u>フラッシュとは、音声やベクターグラフィックスのアニメーションを組み合わせることでWebコンテンツを作成することで、興味を持って学ぶことができ、様々なIT技術を習得することで優秀な人材を育成することを目指す。</u></p>

新	旧
<p><u>国際理解：</u> <u>海外語学研修やネイチャー・ドキュメンタリー『世界遺産』</u> <u>視聴を通して、海外の文化や自然について幅広く学ぶことで、</u> <u>異文化に対する理解と態度を身につけ、国際理解の精神と平和</u> <u>を大切にする心を養う。</u></p> <p><u>目標発見：</u> <u>各種職業の見学や講演会、大学訪問や進路研究などを通して、</u> <u>将来の目標を生徒が自ら探していくことで、進路への関心を喚</u> <u>起するとともに、生徒のモチベーションを高める。</u></p>	